

# 富山経協



クレマチス「五十鈴川」 (解説・16ページ)

## CONTENTS

- 2 第68回定時総会 (報告)
- 5 定時総会講演会 (講演要旨)
- 6 TOP INTERVIEW  
ユニオンランチ 遊道義則社長
- 8 調査報告  
2013年春季賃金改定状況調査<最終集計>
- 10 業務日誌
- 10 Keikyo行事レポート
- 12 参加者NOTES
- 14 環境委員会講演会 (講演要旨)
- 16 新会員紹介
- 16 会員の動き
- 17 景況指標
- 18 おしらせ・行事予定



# 第68回 定時総会

一般社団法人富山県経営者協会の第68回定時総会は5月16日(木)15時30分から、富山国際会議場2階会議室で、423社(出席197社、委任状226社)によって開催した。

定刻に至り、開会宣言をし、本日の定時総会は定足数を満たしたので成立した旨を告げ、稲垣代表理事の挨拶の後、定款第15条により稲垣代表理事が議長となり、7つの議案について審議・報告し、いずれも異議なく満場一致で承認された。開会に先立ち、稲垣会長より、昨年総会以降の叙勲受章者2名が紹介された。



## 理 事 会

5月16日(木)16時から「5月度理事会」を、理事8名、監事2名が出席し、富山国際会議場2階 会議室で開催した。

出席理事数、出席監事数の報告を行い、定款30条の定めにより成立していることを報告し、稲垣理事が議長となり議事に入った。

### ・会長・代表理事選任の件

稲垣理事を会長・代表理事に、武内理事、綿貫理事、町野理事、笠井理事、米屋理事、佐々理事、松岡理事を副会長に、佐藤理事を専務理事とする案が全員異議なく承認された。

### ・新会員承認の件

「医療法人社団藤聖会八尾総合病院」の入会について全員異議なく承認された。

## 講演会・座談会

総会終了後、同会議場3階大ホールで、YKK株式会社 社外取締役・中部大学 副学長の小野桂之介氏から「YKKの経営理念「善の巡環」から得られる示唆」と題して講演をいただき、その後、稲垣会長がコーディネーターとなり、株式会社水戸理化ガラス代表取締役社長 平沼博氏、株式会社インテック代表取締役最高経営責任者 中尾哲雄氏、小野桂之介氏による座談会を行った。(講演要旨は5頁掲載)



## 懇親会

懇親会はANAクラウンプラザホテル富山・鳳の間で開催。稲垣会長の挨拶につづき、石井知事が祝辞を述べ、齊藤監事が乾杯の発声をした。武内副会長が中締めした。

開催に先立ち稲垣会長から新会員の小沢薬品(株)、三幸(株)、大洋保険サービス(株)、ソニー生命保険(株)富山支社の各社が紹介された。



稲垣会長挨拶



石井知事の祝辞



齊藤監事の乾杯



武内副会長中締め

## 第68回 定時総会 議事

### 第1号議案 2012年度事業報告

会議、各種事業活動、協力事業活動について、議案書記載のとおり実施した。

定時総会は5月28日に、9月12日に臨時総会を開催した。理事会は4回開催した。事業推進機関会議は会長・副会長会議を2回、幹事会を3月に開催した。会員懇談会は7月西部地区、9月富山地区、11月東部地区の3回開催した。新春互礼会は4団体合同で1月4日に開催した。広報調査活動は機関誌を隔月6回、講演録は3回発行した。委員会による研究小冊子は3委員会から発行した。調査活動として、定期調査5回、緊急調査4回実施した。以上の活動により、会員数は440社、事業への参加者数は5,755名となった。

### 第2号議案 2012年度財務諸表承認の件

#### ・正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部	
経常収益計	92,651,690円
経常費用計	103,409,106円
経常増減額	△10,757,416円
経常外増減の部	
経常外収益	780,100円
経常外費用	0円
経常外増減額	780,100円
一般正味財産増減額	△9,977,316円
正味財産期末残高	161,337,525円

#### ・貸借対照表

資産の部	
流動資産	118,009,434円
固定資産	55,179,953円
資産合計	173,189,387円
負債の部	
流動負債	6,320,232円
固定負債	5,531,630円
負債合計	11,851,862円

資産合計から負債合計を引いた正味財産合計は161,337,525円となった。

### 第3号議案 公益目的支出計画実績報告

公益目的財産額の確定額171,314,841円を19年でゼロ円とする公益目的支出計画に基づき、今年度支出計画額11,229,000円に対して実績は7,928,000円となった。

第2号議案に関し、監事の齊藤栄吉氏（富山銀行取締役頭取）から「その内容は正確かつ妥当」との監査報告が行われた。

### 第4号議案 2013年度事業計画（案）審議の件 （2013年度事業計画）

多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究、企業活動の源である社員への研修等の教育提供、労使関係の充実を目指した人事制度などの提案、会員同士の情報交換と人脈づくりの場の提供などにより、

## 第68回定時総会 議事 (つづき)

会員企業の更なる繁栄につなげていく。また、地域社会における民間の経済団体の代表格である位置づけの責任を果たすため、行政の雇用安定や地域振興の取り組みへの支援を行い、他経済団体との連携を深めて、地域社会の発展に努める。

以上の実現を目指し2013年度の事業活動を以下のとおり行う。

1. 企業の存続なくして雇用はありえない。先の見えない企業環境において参考となる他社の取り組み・仕掛け、行政の雇用や人材育成の支援制度などの情報提供活動を進めていく。
2. 企業の繁栄の源泉は究極的には人材力である。会員企業各社の実情に適合し、そこで働く人がより働きがいを感じ、自ら能力を向上する人事処遇・教育制度の実現に向けての支援を強化する。
3. 単独の活動には限界がある。行政並びに他の経済団体との連携を通して、当協会の各種事業の強化と充実を図っていくとともに、協会の枠を超えた人脈づくりにつなげていく。
4. 公益性を高める活動を強化する。研究成果やアンケート結果などをマスコミやホームページで情報提供する。そのために会員増強と会員相互の協力の場である委員会活動へ各社担当責任者の参画を促進する。

### 第5号議案 2013年度収支予算(案) 審議の件

#### ・損益予算書

##### 一般正味財産増減の部

経常収益計	96,175,000円
経常費用計	100,647,000円
経常増減額計	△4,472,000円

##### 経常外増減の部

経常外収益計	0円
経常外費用計	0円
経常外増減額計	0円

一般正味財産増減額 △4,472,000円

以上2議案について異議なく、満場一致で承認された。

### 第6号議案 理事・監事選任の件

#### 理事候補者

稲垣 晴彦 北陸コカ・コーラボトリング(株) 代表取締役社長  
武内 繁和 武内プレス工業(株) 代表取締役社長  
綿貫 勝介 トナミ運輸(株) 代表取締役社長

町野 利道 コーセル(株) 取締役会長  
笠井 千秋 (株)タカギセイコー 代表取締役社長  
米屋 正弘 北星ゴム工業(株) 代表取締役会長  
佐々 裕成 Y K K(株)黒部事業所 副社長事業所長  
松岡 幸雄 北陸電気工事(株) 代表取締役社長  
佐藤 登 (一社)富山県経営者協会 専務理事

#### 監事候補者

金岡 純二 (株)富山第一銀行 取締役会長  
齊藤 栄吉 (株)富山銀行 取締役頭取  
山地 清 富山信用金庫 理事長  
松村 篤樹 あおぞら経営税理士法人 代表社員  
以上異議なく満場一致で承認された。

### 第7号議案 「新委員会設立」 審議の件

#### (名称)

この会は、一般社団法人富山県経営者協会 I T・インフラ委員会と称する。

#### (目的)

I T (information technology) は企業活動にとって欠かせないツールであり、その活用は企業の業種、規模を問わず共通の経営課題となっており、さらに I T の基盤 (ハードウェア等) 整備 (インフラストラクチャー: 略称インフラ) は企業活動を支える重要な位置付けとなっている。

しかし、その運用は東日本大震災において大きな問題となった。また I T インフラの管理運営はその専門部署に任されるケースが多く、経営者がメリットとデメリットをしっかりと理解し、リスク管理の上運営していかないと仮に問題が発生した際に企業の存続すら危うくする可能性がある。

当委員会では、I T を使う立場からの問題点や課題について研究・情報交換し情報発信する。

#### (事業)

この会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) I T 基盤整備のための情報収集・勉強会の開催
  - (2) 安全性確保のための情報収集・勉強会の開催
  - (3) I T 部門の B C P (事業継続計画) 策定のための研究
  - (4) I T 運用者のモラル向上と、事故防止対策の研究
  - (5) 前各号の他、この会の目的達成に必要な事項
- 新委員会は15社前後の会員企業で構成し、委員長は富山銀行齊藤頭取とする。

## YKKの経営理念「善の巡環」から得られる示唆

YKK株式会社 社外取締役

中部大学 副学長 小野 桂之介氏



### ◆「善の巡環」の基本原理解

「善の巡環」というYKK精神の原点は、「他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない」という、創業者吉田忠雄さんの考えです。その構成要素の中で、特に4つの基本原理が私は大事だと思います。

その第1は“貯蓄”です。社内預金制度は給料から天引き。預金がたまると社員持株制度に移行。これを、創業者は意識的にしっかりとやられた。

そこには“社員＝株主”という第2の基本原理解があります。「企業の株主は本来は従業員であるべき」という理念・哲学に基づくものです。成果物はその成果を生み出した経営者と従業員が分けるのが一番理想だという哲学です。

そうやって集まった資金で積極的な設備投資（基盤整備）を行ってきました。その結果、コストダウンと品質の改革が行われました。それを「垂直統合」でやる。つまり、重要な設備は極力社内で設計開発して作っていくのです。

そこで創業者が強調したのが第3の基本原理解“知恵と努力”です。どうすればもっと良いものになるか、お客さんに喜んでもらえるか、安く作れるかということ、絶えず知恵を働かせ工夫してやっています。知恵を働かせながら垂直統合で積極的な生産設備投資をやってきたことが、YKKグループの発展の背骨だったと思います。

第4の原理解は“利益三分配”と

いう考え方です。

コストダウンで利益が増え、生産販売が拡大し、利益から残った分は内部留保して再投資。賃金も改善する。社員持株になっているので、会社の利益が上がれば、配当面からも収入増につながる。

内部留保は生産設備投資に再投入され、コストダウンと品質改革を呼び、お客さんのメリットにもなるし、次の生産販売拡大につながる。設備メーカーや材料メーカーの発展、進歩にもつながる。

そして販売面で協力してくれる代理店さんにはまず取引保証金を積んでもらい、その保証金に対して高い金利を付けた。そこに銀行もからんで、お金の流れ全体の結果として、代理店さんもYKKも運転資本の幅が広がる。ゆとりの運転資本で、代理店さんは多品種化してくる商品在庫を揃え、生産販売の拡大が実現した。

「善の巡環」は、自分たちだけが良ければいいというのではなく、顧客、従業員、代理店さん、設備メーカー、材料メーカー、さらに広げると銀行にも良いようにバランスよく活動していくと、結局それが自分のところに返ってくる、そういう良い循環が回る仕組みをうまく機能させてきたのです。

### ◆「善の巡環」から得られる示唆

「善の巡環」経営が我々に示唆する普遍的なエッセンスは、第1は「好循環を回す」という概念。好循環が回ると万事がうまくいき

やすく、順調に発展する。上手くいくと、従業員に自信、誇りが生まれ、人材が育ち、やる気が出て、そういうところには良い人材が来るし、育つし、辞めていかない。経営者はそういう良い循環が起こるように促すのです。

2番目の示唆は、「経営者の信念から生まれた方針」という点。それは経営環境が変わってもぶれることはありません。

3番目の示唆は、この理念から生まれた方針と、自社のビジネスモデルとがうまくマッチするように適合させる。YKKの場合、非上場だったので経営者の理念・信念がぶれることなく、自己資金調達によって積極的に設備投資し、品質改革を進め、品質信頼性面で差別化を図って、企業成長を実現してきました。

「善の巡環」から抽出される広く通用する原則としてはこの3つ、「好循環を回す、促す」「経営者の信念から生まれた方針」「ビジネスモデルとの適合」だと、考えるわけです。

### ◆まとめ

「善の巡環」とは、経営者の心の底から出てきた信念・価値観が、経済合理性（ビジネスモデルを実現する方針）と適合して、YKKの長期持続的な成長につながった。この信念・価値観と経済合理性の2つを統合する知恵は、私はこれからの時代の経営者に求められる重要な資質だと思います。

## 地域に根付き安全な食事提供 社員の自己啓発を重視

株式会社 ユニオンランチ  
代表取締役社長

遊道 義則 氏



企業向けの一般給食をはじめ福祉施設への食事提供など多方面へ展開されていますが、現在の業務内容を教えてください。

1980年に父が創業し、事業所向けの弁当屋としてスタートしました。「ユニオンランチ」という社名は、当時高校生、中学生だった姉と私が提案したもので、団結や融和というニュアンスから「幅広

い人々に受け入れられるように」と考えたものです。

富山市内で1日800食から始まった事業所向け弁当は、現在では西は氷見、砺波市から東は黒部市、入善町までの約900社に7,000食を提供しており、売り上げ全体の60%を占めています。次に、私立幼稚園向けの園児給食を1988年から開始し15%、社員食堂の運営

で15%。そのほか老人福祉施設向けの食事や在宅高齢者向けの配食などが10%となっています。さらに離乳食も手掛けており、「0歳から100歳まで」をキャッチコピーに事業展開しています。

**経営の基本方針は。**

地域ナンバー・ワンの弁当屋を目指し、健康に良い食事の提供を通じて社会貢献することです。社員の成長を貴び、重んじる経営を心がけています。事業展開は地域に根付いた商売が大切だと考えているので、儲けるためにエリアを絞るとか、逆に量を増やすために県外にも拡げるつもりはありません。一人でも多くの地元の方に安心して食していただくことが使命と考えています。

**「家庭の味」と言われていますが、メニューも多く、どのように工夫されていますか。**

メニューは一般家庭での奥様のレパートリーよりも多いのですが、かつては「飽きた」と言われることもありました。食材や味の問題ではなく、弁当箱に毎日同じように入ってくるためですね。愛情を込めるかどうか、調理の心構えで出来具合が違ってくると思っています。私も毎日弁当を食べてチェックしていますが、「今日は何かおかしいな」と感じたときは、盛り付けの担当者が1人足りなかったとか、何かある。味もしょっぱかったり薄かったりするときは、分量を量っているのに注意力が問題だったりする。弁当箱も以前、黒と赤2色だったものから定期的に変更し、見た目でも飽きられないようにしています。

**品質管理についての指導は。**

衛生や安全に関するマニュアルもありますが、入社時に食品衛生管理と安全管理について受講した

上で、随時、栄養士が各現場担当に衛生面の指導をしています。現場ではサラダ室、調理室、盛り付け室など部屋ごとに衛生管理の担当者がいて、それを製造部門の責任者が確認し、さらに栄養士がチェックするという体制です。現在、管理栄養士が1人、栄養士が2人います。

### —見える化実践—

**社員研修やクレーム対応はどのようにされていますか。**

社員研修で「仕事においては目標を持って達成していこう。そしてその目標の向こうには人生の目的を持たなくてはいけない」という自己啓発を繰り返しやっています。会議室に啓発のキャッチコピーを張っています。廊下にはお客さんの声を掲示し、とにかく見えるようにしています。

以前は、営業担当が受けたクレームを製造の責任者に伝えて、対策を講じるという具合でしたが、調理、盛り付け、配達、責任者もそうでない人も「こんな意見があった」ということを認知させる必要があると思って始めました。お褒めの言葉も書くように勧めているのですが、なかなか書きませんね（笑）。配達員もマナーや弁当の置き方、車の運転など定期的に研修しています。「自分がされて気持ちの良いことは、人にしろ」

と言っています。

**早くから福祉向けに食事を提供されています。**

介護関係を始めて8年になります。老人福祉施設の中でもデイサービスやグループホームなど、比較的規模の小さな施設に食事を届けています。当初は普通の食事を出していたのですが、最近は刻み食やミキサー食など大変手間がかかる上、糖尿病、腎臓病といった治療食もお願いされること増えてきました。盛り付けには3人がかりで3時間かけています。またカロリー、塩分、糖質など、栄養士が判断してメニューを立てなければいけないので、正直なところ採算が合いません。

もう一つ富山市と高岡市で一人暮らしの高齢者などに弁当を配達しています。行政サービスの一環で、食事を提供すると共に安否確認も行っています。数が少ない上に1軒に1食と効率が悪い。これまでは商売というより社会貢献だと思ってやってきましたが、最近になって需要が増えてきました。**全国ネットの大手が進出してきましたが対策は。**

大手の進出は、家庭向け弁当が広く認知されるという意味で、むしろチャンスだと思っています。その上で、大手のサービスは基本的に月曜から金曜まで、県外で調理された物をチルドで運んでくる

のですが、当社は富山で作ったものを毎日届ける仕組みができており、今後、地元密着で積極的に伸ばしていきたいと思っています。

### —安心安全の弁当業界に—

**今後の課題を教えてください。**

昭和の頃、弁当業界は適正な競争が行われていましたが、平成に入ってから、輸入食材の増加もあり、どこも少しでもシェアを獲得しようと値下げに歯止めがかからなくなりました。事業所向け弁当は現在1食あたり平均382円。ほとんどのお客様は「安い」と認識していただいているのですが、やはり「もっと安い弁当を」という方がいらっしゃるのも事実です。

しかし価格はお客様からの評価の一つであるはずで、現在の状況は弁当業界に対する信頼性が低下していることの表れではないかと感じるのです。「毎日安全な食事をお届けする」という弁当屋本来の役目をしっかり果たすことこそが信頼の獲得に繋がるのであり、価格競争に頼らない、適正な競争ができる弁当業界に戻るよう他の弁当屋さんにも訴えていきたいと考えています。

### 会社概要

#### 株式会社ユニオンランチ

設立：1980(昭和55)年5月  
所在地：富山市向新庄町4-1-82  
資本金：4,800万円

事業内容：日配給食弁当の製造販売、幼稚園児給食弁当の製造販売、社員食堂等の受託運営管理、富山市・高岡市介護配食サービス、老人福祉施設の食事提供受託業務

従業員数：180人（2013年5月現在）  
売上高：7億8,000万円(2012年8月期)  
事業所：富山営業所、高岡営業所、魚津営業所

関連会社：(株)ときわ  
URL：<http://www.unionlunch.co.jp/>

### 略歴

1965(昭和40)年10月生まれ。富山市出身。富山高校、関西学院大経済学部卒業後、給食のグリーンハウス、日配給食弁当の光グループ勤務を経て1992年ユニオンランチ入社。1997年取締役、2002年2月から代表取締役社長。



# 調査報告

## 2013年春季賃金改定状況調査

### 1. 富山経協調べ

県内企業の賃金改定状況〈最終集計〉

**104社加重平均2,867円、改定率1.10%**

当協会は「2013年春季賃金改定状況調査結果（加重平均）」の最終集計を取りまとめた。（表1）

県内企業109社から寄せられた回答のうち集計可能な104社の改定額平均は2,867円、改定率1.10%で、昨年の最終集計結果（2,849円、1.10%）と比べると、改定額は18円増加、改定率は同じとなった。

業種別にみると、製造業56社の改定額平均は3,176円、改定率は1.19%で、昨年（3,570円、1.39%）と比べると、改定額は394円減少、改定率は0.20%減少した。一方、非製造業48社の改定額平均は2,652円、改定率は1.04%で、昨年（2,321円、0.89%）と比べると、改定額は331円増加、改定率は0.15%増加した。

改定額の分布では、「2,500円以上3,000円未満」が13社（12.5%）で最も多く、次いで「0円（賃上げ未実施）」が12社（11.5%）、「2,000円以上2,500円未満」が10社（9.6%）であった。（図表2）

改定率の分布では、「1.8%以上2.0%未満」が14社（13.5%）で最も多く、次いで「1.0%以上1.2%未満」が13社（12.5%）、「0%（賃上げ未実施）」が12社（11.5%）であった。（図表3）

改定の実施内容では、「定期昇給のみ実施した」企業が48社（45.7%）で最も多く、次いで「定昇制度はないが昇給を実施した」企業が22社（21.0

（表1）2013年春季賃金改定状況調査結果（加重平均）

〔最終集計—2013年6月7日〕

（一社）富山県経営者協会

業種	2013年			2012年			
	社数(社)	改定額(円)	改定率(%)	社数(社)	改定額(円)	改定率(%)	
製造業	織 維	3	5,274	1.80	3	5,293	1.78
	パルプ・紙・紙加工品	3	2,384	1.09	2	1,688	0.83
	印刷・同関連	2	1,997	0.91	3	2,734	1.25
	化学・薬品	8	3,816	1.32	12	2,933	1.03
	プラスチック製品	5	3,325	1.45	4	3,303	1.46
	窯業・土石	0	0	0.00	1	—	—
	鉄鋼・非鉄金属	4	3,647	0.10	1	—	—
	金属製品	5	1,306	0.55	5	2,987	1.30
	一般機械器具	15	3,681	1.47	13	4,043	1.64
	電気機械・電子部品	4	2,959	1.12	6	2,843	1.18
非製造業	輸送用機械器具	2	2,034	0.78	3	4,519	1.61
	その他製造業	5	3,479	1.49	7	3,935	1.75
	製造業平均	56	3,176 (3,234)	1.19 (1.27)	60	3,570 (3,191)	1.39 (1.26)
	建設業	9	4,374	1.81	7	3,861	1.52
非製造業	電気・ガス	3	2,465	0.88	3	2,735	0.98
	情報サービス・通信	7	3,992	1.48	9	2,773	1.06
	運輸・倉庫	9	1,987	0.81	11	1,959	0.80
	卸・小売業	12	3,053	1.48	10	2,668	1.10
	金融・保険	2	0	0.00	2	484	0.17
	サービス業・その他	6	3,112	1.20	5	3,081	1.25
非製造業平均	48	2,652 (3,121)	1.04 (1.24)	47	2,321 (2,814)	0.89 (1.15)	
全業種平均	104	2,867 (3,182)	1.10 (1.26)	107	2,849 (3,025)	1.10 (1.21)	

（注）① 改定額には、定期昇給等を含む。

② 平均欄の上段は加重平均、下段の( )内は単純平均である。

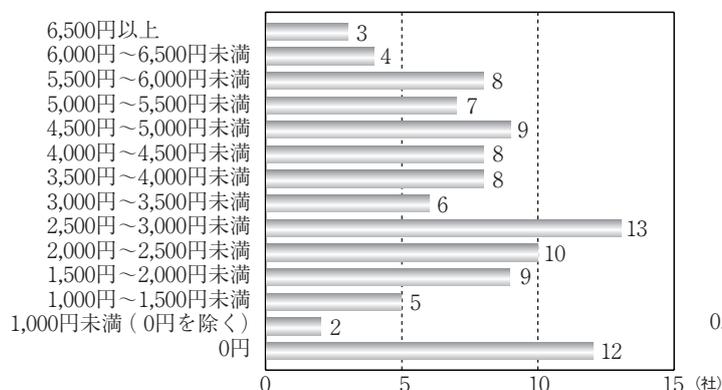
③ 当該業種1社だけの回答の場合は数字を伏せているが、平均には含む。

「定期昇給とベースアップを実施した」企業が15社（14.3%）となっている。

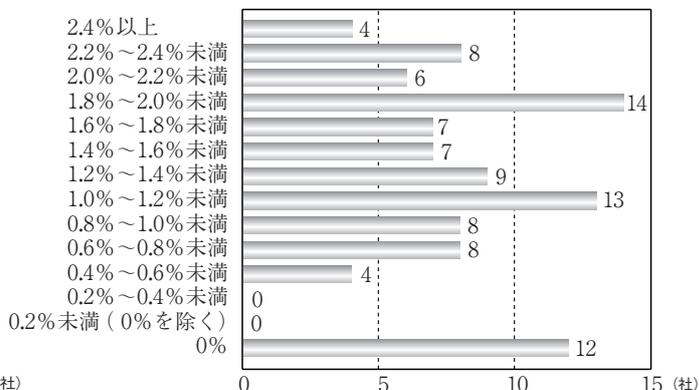
賃金を改定するに当たり最も重視した要素では、「企業業績」を挙げる企業が60社（76.9%）で最も多く、次いで「世間相場」が7社（9.0%）、「労使関係の安定」が6社（7.7%）となっている。

# 〈最終集計〉

(図表2) 賃金改定額の分布



(図表3) 改定率の分布



## 2. 日本経団連調べ

全国の中小企業の賃金改定状況〈第1回集計〉

**172社加重平均4,141円、改定率1.64%**

日本経済団体連合会は5月10日、「2013年春季労使交渉・中小企業業種別回答(加重平均)」の第1回集計を発表した。(表4)

調査対象(従業員数500人未満の全国の中小企業17業種741社)のうち、174社(23.5%)で回答が出ており、このうち集計可能な172社の総平均額は4,141円、改定率1.64%で、昨年の第1回集計結果(3,855円、1.52%)と比べると、金額で286円、率で0.12%増加した。

業種別にみると、製造業133社の平均は4,572円、改定率1.75%で、昨年の第1回集計(4,296円、1.65%)よりも金額で276円、率で0.10%増加、非製造業39社の平均も2,484円、改定率1.12%で、昨年(2,408円、1.05%)より金額で76円、率で0.07%増加している。

なお、最終集計の公表は6月末頃を予定している。

(表4) 2013年春季労使交渉・中小企業業種別回答一覧 [了承・妥結合] (加重平均) [第1回集計-2013年5月10日]

(一社) 日本経済団体連合会

業種	2013年			2012年			
	社数(社)	回答額(円)	増減率(%)	社数(社)	回答額(円)	増減率(%)	
製造業	鉄鋼・非鉄金属	7	4,655	1.82	6	4,402	1.81
	機械金属	46	4,625	1.73	34	4,492	1.73
	電気機器	14	4,063	1.66	12	4,374	1.66
	輸送用機器	4	4,271	1.71	4	4,036	1.77
	化学	21	5,827	2.14	16	4,115	1.50
	紙・パルプ	4	3,605	1.54	3	1,449	0.54
	窯業	3	4,087	1.61	4	3,984	1.49
	繊維	14	3,495	1.52	10	3,216	1.39
	印刷・出版	2	4,419	1.54	3	5,528	1.75
	食品	9	3,708	1.48	7	4,586	1.86
その他製造業	9	4,435	1.64	6	4,486	1.52	
製造業平均	133	4,572 (4,408)	1.75 (1.73)	105	4,296 (4,221)	1.65 (1.60)	
非製造業	商業	6	2,095	0.94	10	3,313	1.31
	運輸・通信	19	1,884	0.92	14	1,599	0.82
	土木・建設	5	3,926	1.66	1	-	-
	ガス・電気	5	3,886	1.32	2	3,450	1.09
	その他非製造業	4	3,147	1.54	5	2,708	1.19
非製造業平均	39	2,484 (2,634)	1.12 (1.22)	32	2,408 (2,261)	1.05 (1.01)	
総平均	172	4,141 (4,005)	1.64 (1.63)	137	3,855 (3,763)	1.52 (1.48)	

(注) ① 調査対象は、原則として従業員数500人未満、17業種741社  
 ② 16業種174社(23.5%)で回答が出ているが、このうち2社は平均金額不明等のため、集計より除外  
 ③ 上記回答・妥結額は、定期昇給(賃金体系維持分)等を含む  
 ④ 製造業平均、非製造業平均、総平均欄の( )内の数値は、単純平均  
 ⑤ 2012年の数値は、2012年5月7日付第1回集計結果  
 ⑥ 集計社数が1社の場合など数字を伏せた業種があるが、平均には含まれる

## 業務日誌

2013年 4月6日～6月5日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	経営企画委員会	経営企画	4月11日(木)	富山経協・会議室	10名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	4月19日(金)	富山経協・会議室	8名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	4月22日(月)	富山経協・研修室	22名
	理事会		4月24日(水)	富山経協・研修室	7名
	定時総会・講演会・座談会		5月16日(木)	富山国際会議場	197名
	理事会		5月16日(木)	富山国際会議場	10名
	環境委員会「定例委員会」	環 境	5月30日(木)	富山商工会議所ビル	24名
セ ミ ナ ー ・ 講 座	品質管理入門講座 基礎編	品質管理	4月18・25日(木)	富山経協・研修室	29名
	管理職マネジメント研修(第8回)	教 育	4月17日(水)	富山県農業総合研修所	22名
	品質工学実践講座	品質管理	4月19日(金)～	富山経協・研修室	9名
	営業力基礎コース	教 育	4月23・24日(火・水)	富山商工会議所ビル	25名
	品質管理セミナー 「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」	品質管理	5月17日(金)～	富山経協・研修室	19名
	管理職マネジメント研修(第9回)	教 育	5月17・18日(金・土)	富山県農業総合研修所	24名
	ビジネス・マナー習得コース	教 育	5月23日(木)	富山商工会議所ビル	39名
	人事・労務管理セミナー(第1回)	人事・労務政策	5月28日(火)	富山経協・研修室	23名
	環境委員会「講演会」	環 境	5月30日(木)	富山商工会議所ビル	34名
	中堅社員活性化コース	教 育	6月4・5日(火・水)	富山商工会議所ビル	37名

## 経営企画委員会

### ■2013年度第1回委員会

4月11日(木)、2013年度第1回経営企画委員会を、守山委員長はじめ委員10名が出席して、富山経協・会議室において開催し、2013年度事業計画の進め方について審議を行った。

守山委員長より、2013年度事業の内容について事務局案をベースにご審議をいただきたいとの挨拶があった。引き続き事務局より、①富山経協の2012年度実績報告として、会員数は440社、事業参

加者は5,756名であった、②2013年度事業として、「企業理念見学会」の第1回は6月19日にユニゾンさんと総務交流委員会と共催で開く。第2回は10月に北陸コカ・コーラボトリングさんと企画を進めている。「県外企業見学会」は11月に長野経協を訪問する予定で進めている。「グローバル人材育成研修」は8月にベトナム編で県との共催で企画を進めている。「定例委員会」は今回を含め4回開催するなどの事務局案を説明した。

これらについて審議を行い、①2013年度事業は事務局案を進める、②情報提供は企業理念見学会の報告書を発行する方向で進めることを決めた。次回委員会は8月9日に開催する。

## 人事・労務政策委員会

### ■幹事会

4月19日(金)、綿貫勝介委員長ほか副委員長・幹事7名が出席して、富山経協・会議室で開催した。

今年度の委員会の具体的事業活動内容について、5月度定例委員会は6月12日に、厚生労働省より宇野調査官、日本経団連より坂下主幹を招き、職業能力開発政策についてと、中小企業の海外展開に関する現状課題と求められる対応について講演していただく。8月定例委員会は8月21日に元経団連CBC企画部長 関政雄氏を招き、ISO26000の詳細について講演いただく。

次に、障害者雇用対策研究として、今年度新設された2校の特別支援学校の見学会を、それぞれ西部・東部の地区に分けて実施する。障害者雇用の先進企業見学会は、県、労働局と連携して10月に実施



する。また、国の雇用対策事業として、若者チャレンジ奨励金、正規雇用労働者育成支援奨励金など、失業者支援から、早期退職の防止、従業員的能力向上、定着支援に重点を置いた施策がスタートしており、できる限り会員企業に周知する。以上を決定した。

### ■人事・労務管理セミナー(第1回)

5月28日(火)、人事・労務管理セミナー(第1回)は「タイムマネジメント～仕事の効率化を図り、より大きな価値を生むために～」をテーマに、23名が参加して富山

経協・研修室で開催した。

講師の公益財団法人日本生産性本部主任経営コンサルタントの大場正彦氏は、「時間」という“限りある資源”を上手に使いこなせるかどうかで、成果は自ずと決まってくることから、非効率な働き方を解消するための取り組み方法、一人ひとりができるタイムマネジメントの工夫ポイントについて、具体的ケース事例を交えて詳しく解説した。



## 教育委員会

### ■営業力基礎コース

4月23・24日(火・水)、25名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。



公益財団法人日本生産性本部の小林定夫主任経営コンサルタントが、営業プロセス、営業戦術、新規開拓、営業マナー、既存取引先への深耕、営業報告などの基本的知識や技能について詳しく解説し

た。また、ケーススタディ「なぜ受注したのか、失注したのか」によるグループ討議や新規開拓をケースにロールプレイング(役割演技)を実施した。参加者同士の相互評価や理想の営業活動について考えるなど、これからの実践に役立つ研修であった。

### ■ビジネス・マナー習得コース

5月23日(木)、39名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師のキャリア・カウンセラーの長谷川綾子氏から、ビジネス現場で活用するための正しい接遇・応対の基本と応用について、何故このようなマナーが決められているのか、どうすればスムーズにできるのかを、解説と実際のケース



を基にしたロールプレイングを交えて詳しく指導いただいた。参加者からは、日頃から疑問に思っていたことが解決できた。コミュニケーションの重要性が理解できた。早速実践してみたいなどとの感想が聞かれ、今後、実際の仕事に活かされていくことが期待される。

## ■中堅社員活性化コース

6月4・5日(火・水)、55名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

現代経営教育センター代表の大塚講師から、企業環境の変化と職場リーダーの役割・行動について学んだ。先を見据える技術を培い、備えることが大事であるとして、職場リーダーとして、①企業(職場)環境の変化とリーダーとしての備え方、②職場改善力と上司サポート力の磨き方、③後輩指導と



リーダーシップの取り方、④長所の発見と自己改革のすすめ方について、ケーススタディなど演習やワークショップを通して学んだ。また、自己分析を通じて、自分の長

所(強み・ウリ)を発見し、今後のキャリアアップを図ることが重要で、この先、「自己投資を怠らず、主体的に生きることが重要」であるとした。

## 品質管理委員会

### ■定例委員会

4月22日(月)、町野委員長はじめ委員22名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

委員長挨拶の後、事務局より、2013年度の事業計画について、日程が確定した講座・行事ならびに講座・行事の担当割りを報告した。次に、本年度委員企業の見学研修先として、「細川機業(株)」、「(株)スギノマシン」を選定した。また、県外見学研修会は、新潟県の「パナソニックエコソリューションズ



社新潟工場」を選定した。

会議の後、「品質コストの低減」をテーマに、3班に分かれ、委員企業における状況や問題点等についてグループディスカッションを行った。

## 参加者NOTES

教育委員会

### 「営業力基礎コース」を受講して

北陸電機製造株式会社

営業部 按田 侑希



私が営業部に配属されてから約1年が経過したところで、今回の「営業力基礎コース」を受講させていただきました。普段の業務になぞらえながら、営業としてのあり方や、マナーを学ばせていただきました。

2日間の講習の内容は、資料に沿ってグループディスカッションやロールプレイングで演習を行うことで、実践的でとても身に付けやすい講習だったと思います。

1日目の講義では「営業に求められるもの」、「営業プロセス」、「営業戦術」、「新規開拓」の4

項目を学習しました。営業としての役割と位置付け、アプローチから始まる商談、成約、及びアフターフォローにおけるポイントを、小林先生の実体験を交えてご教授いただきました。特に営業プロセス内において「アフターフォロー」はとても大切で、徹底することで今後の「受注」に大きく関わるといことが印象深かったです。また、新規開拓については、資料と説明だけでなく、各自の会社パンフレットや名刺を用いて実際に行い、各々のよく出来ている点や、弱弱点を知る事ができました。

2日目の講義では、「営業マナー」、「営業知識」、「既存取引先への深耕」、「営業報告」の4項目について学習しました。営業知識のテーマでは各グループに分かれ、なぜ成約できたか、なぜ失注したかのケーススタディを行いました。また、客先に出向き起こり得る状況の対応法について討議する「営業演習」を行いました。グループ学習の際は、ご一緒した方の会社について、仕事内容やプライベートの過ごし方等を会話しコミュニケーションを深め、とても有意義な時間を過ごしました。

営業としての目的や基礎的な知識に乏しかった私は、多くの不安を抱え悩んでおりましたが、2日間の講習により大きな自信となりました。営業として大切な公式「行動=意欲×(知識+能力)」を肝に銘じ、今後の業務における成果に繋げていきたいと思っています。

## ■品質管理入門講座<基礎編>

本講座は、「品質管理入門コース講座」から名称を変更し、「品質管理入門講座」<基礎編><応用編>として開催する。

<基礎編>は4月4日(木)を皮切りに全4日間の日程で、富山経協・研修室を会場に29名が参加して開講した。

この講座は、講義と演習により、より効果的に改善を進めるために不可欠である「品質管理」の考え方・手法について学び、「品質管理」の基本、問題の発見とその解決に役立つQC7つ道具の使い方を習得するために開講している。

企業を取り巻く環境は日々変化



しているが、そのため各企業は、いたるところでたゆまぬ改善・改革活動を進めており、企業をあげての改善活動が根付くために、人材の育成の重要性が一層要求されるようになってきている。今回から取り入れた認定試験に全員が合格し、「品質管理初級」の資格を手にした。

## ■品質工学実践講座

4月19日(金)を皮切りに全10日間の日程で、富山経協・研修室を会場に9名が参加して開講中である。



品質工学(タグチメソッド)は、技術のコンセプトの良否を的確かつ速やかに診断するために非常に有益な評価技術である。

### 参加者NOTES

品質管理委員会



### 「品質管理入門講座<基礎編>」を受講して

北陸電気工業株式会社  
高周波部品事業本部  
開発部 第一開発技術課  
松井 健朗

私は、品質に関する講義を受けたことが無かったのですが、開発部に所属しており、データの解析やグラフを作成する機会が多く、QC7つ道具は自分なりに使いこなせていたように思っていました。

しかし、講義を受けてみて、私の日頃の仕事の中の品質の考え方、QC7つ道具の使い方など、より一層改善をすることができる実感しました。

講義では、日本の品質の歴史やQCセンス、QC7つ道具の正しい使い方を教わりました。さらに、グラフを作成する演習や、グループワークで特性要因図を作成するなど、仕事に即座に使えるように学ぶことができました。また、受講後は、グラフは誰にでも伝わるように工夫して作成しよう、見える化を進め現場での良い品質を維持し続けるための管理を推進しようなど、自分の中の意識が変わってきました。

日々の業務や生活において、改めて積極的に手法を実践しながら、問題解決を図り、より良い品質のものづくりを推進していきたいと思っています。



となみの工業株式会社  
総務・経理グループ

安田 祐美子

私は、製造業の総務・経理グループに所属しています。品質管理についてはまったくの素人であり、初歩的なところからの出発でありましたが、指導講師ならびに受講生の皆様に助けていただきながら、なんとか無事に本講座を終えることができました。

今回の講座で特に印象深かったのは「QC7つ道具」の実践の場でした。QC7つ道具を使用して、「問題があるのかないのか?」、「何がネックになっているのか?」などをさぐる実習が、とても新鮮で楽しく取組むことが出来ました。

所属のグループ内でも日々改善活動に取り組んでおりますので、今回得た知識、経験を活用できるよう、今後も努力していきたいと思っています。

本講座は、矢野宏工学博士（日本規格協会参与）を筆頭講師とした講師陣（地元の品質工学の推進機関や企業のリーダー）により、製品設計者や製造技術者が、「品質」と「コスト」の目標を達成するために、少人数方式の個別指導を受け、受講者が抱えている問題、ひいては企業の問題までも徹底的に検討し、解決することを目的に、テーマを持ち寄り、具体的な活動に取り組んでいる。

開講初日は、矢野講師から「品質工学で何ができるか」を分かりやすく解説いただいた。

## ■実践しながら学ぶ統計的手法活用講座

5月17日（金）を皮切りに全15日間の日程で、富山経協・研修室を会場に19名が参加して開講中である。

本講座は、企業の体質改善を進



めるために必要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理（SQC）の手法を学ぶ。上司とキャッチボールのうえ、職場の問題をテーマとして選定し、カウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することにより、自己完結能力を高める。

受講者は、他企業の受講生と仕事の内容や進め方などを意見交換することを通してコミュニケーションを図りながら真剣に受講している。

## 講演 要旨

### 環境委員会

## 「循環型社会と経済界の取り組み」

一般社団法人 日本経済団体連合会  
環境本部本部長

岩間 芳仁 氏



環境と経済の両立に向けた経団連の主体的な取り組みの大きな柱は、自主行動計画（循環型社会形成編と温暖化対策編）です。循環型社会形成編は、廃棄物削減やリサイクル対策等を柱に進めるものです。温暖化対策編はCO<sub>2</sub>の排出削減に取り組み、この4月から低炭素社会実行計画をスタートさせ、より進化しています。

### ◆環境自主行動計画〔循環型社会形成編〕

#### ・環境省「第三次循環基本計画」（案）のポイント

第三次計画における基本的方向は、①3Rのうち2R（リデュース、リユース）が進む社会経済システムの構築。②小型家電リサイクル法の着実な施行など、有用金属の回収と水平リサイクルなど高度なりサイクルの推進。実は、私どもは水平リサイクルを強調することについて注意喚起しています。普通のやり方でリサイクルをすると、エネルギー消費量が増える。ということは、温暖化対策にとってはマイナスになる可能性が、水平リサイクルの場合にはあります。温暖化対策と循環型社会形成対策を両立させる方向を目指すのは当然ですが、両者が矛盾する場合にどう考えるか、議論をする必要があると

思っています。③アスベスト・PCB等の有害物質の適正な管理・処理。④新たな震災廃棄物対策指針の策定。⑤循環資源・バイオマス資源のエネルギー源への活用。⑥低炭素・自然共生社会との統合的取組と地域循環圏の高度化。地域のバイオマス資源・木材等を地域でうまく利用していくということ。地域づくりにもつながる話なので、現場のニーズに即して取り組むべきだと環境省に申し入れています。

さらに、政府は国際的取組の推進も考えていて、これは産業界としても積極的に協力しています。日本は優れた技術を持っていますし、廃棄物リサイクル処理を円滑に進めてきた制度・仕組み図もあるので、そういった知見をアジアの国々に輸出することにより、アジアでの循環型社会形成づくりに貢献するのと、それを日本企業のビジネスチャンスにもつなげるといところで、今後、官民協力してやっていく必要があるのではないかと思います。

### ◆環境自主行動計画〔温暖化対策編〕

#### ・地球温暖化対策に関する方針

政府は、25%目標をゼロベースで見直し、今年11月までに、技術で世界に貢献していく攻めの温暖化

## 環境委員会

### ■定例委員会

5月30日(木)、三鍋委員長はじめ委員24名が出席して、富山商工会議所ビル99号室で開催した。

三鍋委員長挨拶の後、事務局より、「2013年度事業計画」の報告と「情報交換会メンバーの募集案内」、「第1回環境保全活動の募集案内」を行った。その他、白江副委員長より、「富山県生物多様性保全推進研究会」、「富山県環境審議会地球温暖化対策小委員会」、「産業廃棄物削減等検討



会」の審議状況等の紹介があった。

委員会に先立ち、同ビル95・96号室で講演会を開催。三鍋委員長はじめ委員37名が出席した。「循環型社会と経済界の取組み」と題し、一般社団法人日本経済団体連

合会環境本部本部長 岩間芳仁様よりご講演を頂いた。

(講演要旨は、14頁～掲載)



(5月30日、記事は15頁掲載)

対策・戦略を組み立てるということで、こういったものに産業界の意見を反映させるよう努力していきたいと思っています。

#### ・温暖化政策のあり方

温暖化政策については、私どもは自主行動計画で実施したような、現場力、あるいは技術力を発揮させることにより進めるのが良い温暖化対策だと思っています。会議でとか、あるいは机とパソコンを動かして決めるような温暖化対策ではだめだと、やはり現場に根差した温暖化対策を立案することが、グリーン成長につながっていくと思います。

#### ・グリーン成長の実現へ

最後に、私どもの今後のテーマとして「グリーン成長」を進めたいと思っています。学者や役所はグリーン産業ばかりに着目します。省エネ製品や再生可能エネルギーを伸ばすことは当然ですが、ここだけに着目しすぎると、それ以外の産業が疎かになるということを私どもは懸念しています。実はこのグリーン成長は、「産業のグリーン化」と「グリーン産業化」と2つあり、これらの好循環をうまくつくるのが、非常に大事だと私たちは主張しているのです。グリーン産業に着目して、そのしわ寄せ負担をほかの産業に課すということは、経済全体をおかしくすることになります。

#### ・再生可能エネルギー固定価格買取制度

その一例が、再生可能エネルギー固定価格買取制

度です。昨年のエネルギー政策の議論では、2030年に政府が求めるような再生可能エネルギーを導入すると、その買取価格に相当する部分だけで、賦課金総額は、原発ゼロシナリオのときには1年間で7兆円くらい。原発25%のときでも4.6兆円の負担がある。それで電力料金は上昇してきます。これに留まらず、固定価格買取制度は20年間買いますから、後年負担が、2030年時点で、ゼロシナリオで生じている場合は約75兆円、25%シナリオだと49兆円、これだけのものを国民が負担するということになります。ほかの業界や国民がここまで負担をするということを前提にしているの、これは現実的ではないと主張しています。とくに、コミュニティの特性を活かした取組みをすることが大事であると思います。日本として色々な技術を開発、活用し、コミュニティをうまく運営したものを、アジアで展開していく。これは温暖化と低炭素社会だけでなく、循環型、廃棄物・リサイクルの問題も含めてです。まちづくりを日本でうまくすることによって、それを展開していくということで、単なる設備や一技術を輸出するのではなく、仕組み、まちづくりを輸出していくといったことが大切ではないかと思います。

#### ◆まとめ

環境と経済を両立させることが重要で、総合的な環境価値を日本経済の競争力向上につなげていくことが大事だと思います。

## 叙勲受章者

旭日双光章

森 政雄 氏

(リードケミカル株式会社 代表取締役社長)

千田 則行 氏

(にいかわ信用金庫 理事長)

## 新会員の紹介

(50音順)

### ■ 大洋保険サービス株式会社

所在地 富山市畑中82番地  
代表者 代表取締役社長 八木 保博  
設立 1973年(昭和48年)2月  
資本金 1,000万円  
従業員 10名  
事業内容 損害保険・生命保険の販売



### ■ 医療法人社団 藤聖会 八尾総合病院

所在地 富山市八尾町福島7丁目42番地  
代表者 理事長 藤井 久丈  
設立 1986年(昭和61年)3月28日  
従業員 270名  
事業内容 総合病院



## 会員の動き

(50音順) (敬称略)

### ■ 代表者の変更

アイシン軽金属株式会社  
代表取締役社長 河原 嘉史 (前:堀場正樹)  
アイシン新和株式会社  
代表取締役社長 中嶋 勝司 (前:森 秀雄)  
加越能バス株式会社  
代表取締役社長 桑名 博勝 (前:川岸 宏)  
サンエツ運輸株式会社  
取締役社長 星野 清志 (前:品川憲治)  
学校法人 高岡第一学園  
理事長 川原 修平 (前:川原隆平)  
となみの工業株式会社  
取締役社長 河原 嘉史 (前:糺 秀一)  
富山地鉄北斗バス株式会社  
代表取締役社長 桑名 博勝 (前:川岸 宏)  
日新火災海上保険株式会社 富山支店  
富山支店長 石村 幸弘 (前:吉田 充)  
日本海石油株式会社  
取締役社長 瀬藤 真 (前:巻測誠一)  
日本生命保険相互会社 富山支社  
富山支社長 竜田 和弥 (前:中西 誠)  
株式会社 メタルワン特殊鋼  
執行役員北陸営業本部長 竹内 千尋  
(前:中山利明)

### ■ 社名の変更

助野株式会社 (前:助野靴下株式会社)

---ご冥福をお祈りいたします。---

富山地方鉄道株式会社・加越能バス株式会社  
社長 川岸 宏様が5月10日にご逝去されました。  
響産業株式会社  
社長 関 享様が5月23日にご逝去されました。



### 表紙の花 クレマチス「五十鈴川」

クレマチスは最近よく見かけるようになった園芸植物で、以前ご紹介したフクジュソウやシュウメイギクなどと同じキンポウゲ科の植物です。原種は日本をはじめアジア、ヨーロッパ、北アメリカなどに約300種ありますが、花の小さなものが多く、花色も多くありません。しかし、花の大きな種類や花色の鮮やかな種類を使って人工交配が行われ、現在では2,000を超える品種が作られており、それらを総称してクレマチスと呼んでいます。

表紙のクレマチスは「五十鈴川」という品種で、日本の野生種であるカザグルマに似た平たく開いた一重の花をつけます。花卉のように見える8枚は萼片で、本当の花弁はありません。これに似た花で江戸時代から栽培されている「テッセン」という園芸植物があります(写真右下)。中国原産で、漢字では「鉄線」と書き、蔓が針金のように丈夫なことに由来しています。テッセンの花(萼)片は

6枚で白く、紫色の雄しべが目立ちます。テッセンもクレマチスの仲間ですが、植物学的には一つの種類を指す名前です。したがって、たくさんあるクレマチスの仲間をまとめてテッセンと呼ぶのは、いろいろあるサクラの種類をまとめてソメイヨシノと呼ぶのと同じで、間違いになります。

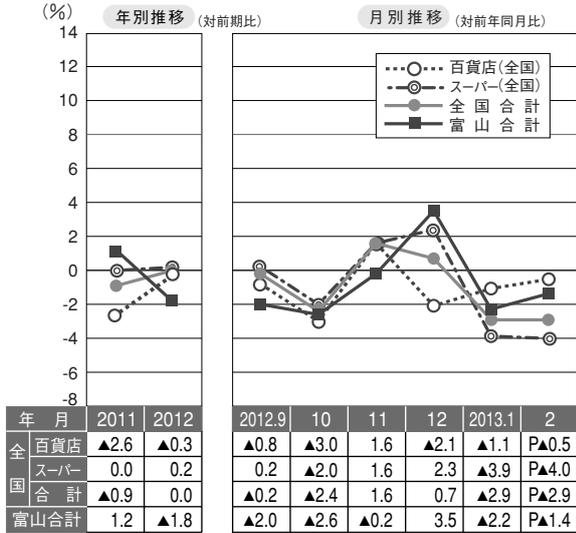
クレマチスは、欧米では地植えで庭のフェンスやアーチに絡ませてガーデニングの素材によく使われますが、日本では狭い庭事情を反映してか、アサガオのように行燈仕立てにして鉢花で楽しむことが多いようです。この蔓はアサガオのように自分で巻き付くのではなく、小葉の葉柄がくるくと基物に絡んで固定されます。蔓の剪定の仕方は種類によって異なっており、間違えると花が見られなくなるので注意が必要です。

(富山県中央植物園 中田政司)  
テッセン▶

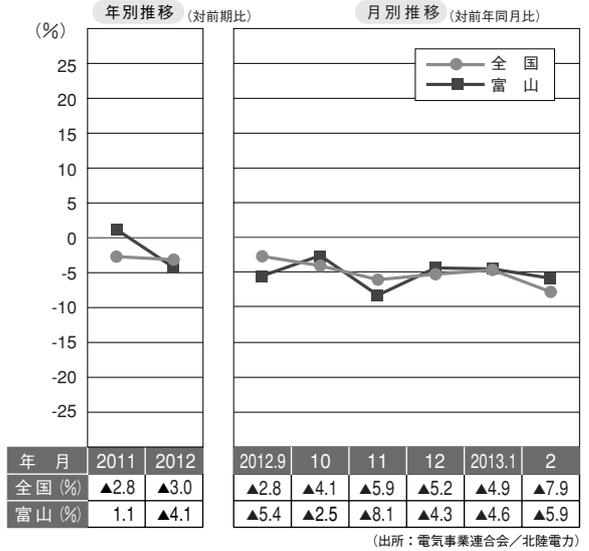


# 景況指標

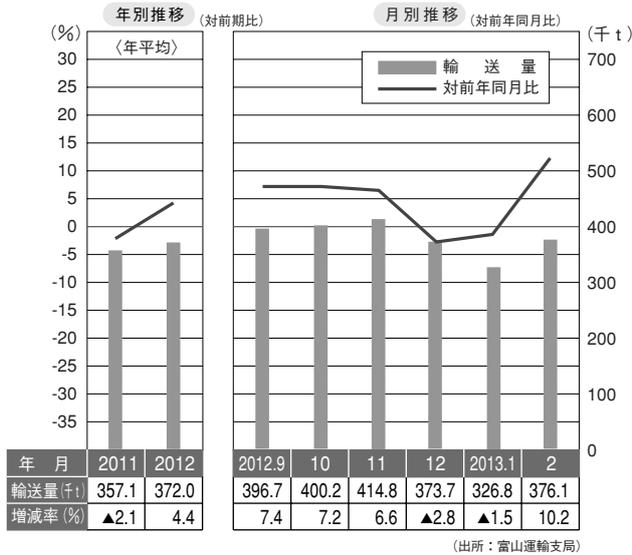
## ■百貨店・主要スーパーの売上高



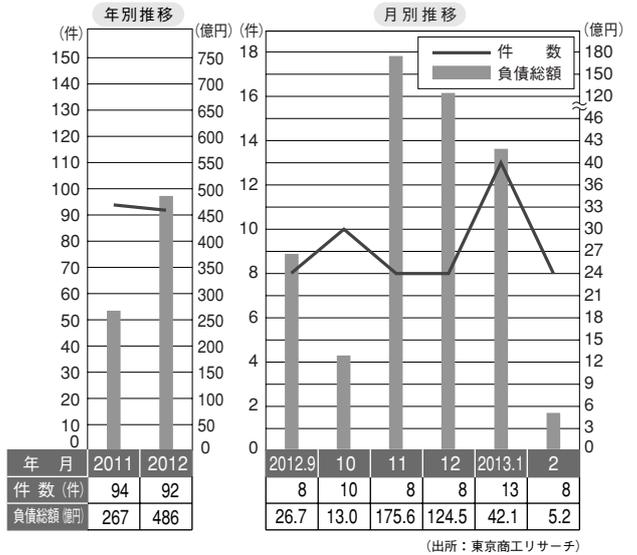
## ■大口電力消費量（製造業計）



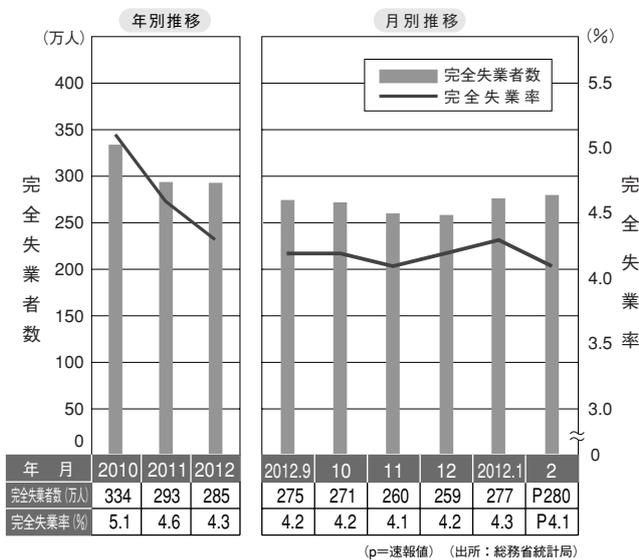
## ■一般貨物自動車輸送量（富山県内）



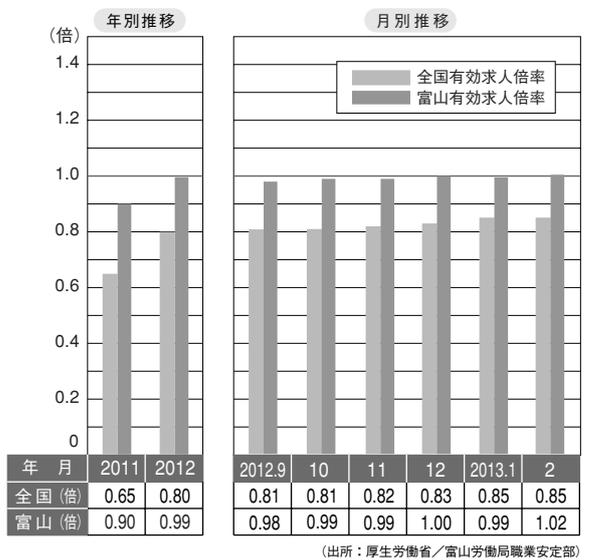
## ■企業倒産（富山県内）（件数と負債総額）



## ■完全失業者数及び完全失業率（季節調整値）



## ■有効求人倍率



お知らせ

◆ 西部地区会員懇談会 ◆

7月12日(金) 場所：ホテルニューオータニ 4階 鳳凰  
高岡市新横町1番地 TEL (0766) 26-1111

17:40~18:40 講演会  
テーマ「日本経済の現状と金融政策について」  
講師：日本銀行富山事務所 所長 佐子 裕厚 氏

18:45~20:00 懇談会

多数の方のご出席をお待ちしております。  
出欠のご連絡を、6月28日(金)までに事務局へお願いいたします。

富山経協ホームページ  
リニューアルしました



当協会のホームページをリニューアルしました。  
会員、委員会専用ページを設け、情報提供、委員会活動の充実を図って参ります。  
専用ページへは、会員各社へ郵送するIDとパスワードを入力してご利用ください。

行事予定

2013年 6月16日~8月31日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)  
「講座・講演案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	6月18日(火)~	16:30~18:30	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	6月19日(水)	13:00~	企業理念見学会	経営企画・総務	(株)ユニゾーン	
	7月 1日(月)	16:00~17:30	IT・インフラ委員会	IT・インフラ	富山経協・研修室	
	7月5・6日(金・土)	13:30~	北陸三県経協協議会		Y K K(株)黒部事業所	
	7月12日(金)	17:00~17:30	会長・副会長会議		ホテルニューオータニ高岡	
	7月12日(金)	17:40~20:00	西部地区会員懇談会		ホテルニューオータニ高岡	上記「お知らせ」参照
	7月23日(火)	14:00~16:00	品質管理委員会	品質管理	細川機業(株)	
	8月 9日(金)	16:30~17:30	経営企画委員会	経営企画	富山経協・会議室	
セ ミ ナ ー ・ 講 座	6月18日(火)~	13:30~16:00	労働法実務研修会(第1回)	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	
	6月20・27日 7月 4・11・25日 8月 1・ 8・22日	9:00~17:00	実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室	
	6月22日(土)	10:00~12:00	第1回環境保全活動	環 境	南砺市・旧オムサンタの森スキー場	
	7月3・4日(水・木)	9:30~16:45	監督者(係長・主任・班長)基礎コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	7月 5・26日 8月23日	9:00~17:00	品質工学実践講座	品質管理	富山経協・研修室	
	7月17~19日(水~金)	9:00~14:30	方針管理実践講座	品質管理	山田交流促進センター	
	7月18日(木)	13:30~16:30	人事・労務管理セミナー(第2回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	7月24日(水)	9:30~16:30	グローバル人材育成講座	経営企画	富山経協・研修室	
	8月 8日(木)	16:30~	管理職マネジメント研修同期会	教 育	富山電気ビル	
	8月 8日(木)	9:30~16:30	女性社員活性化セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	
8月26・27日(月・火)	9:00~16:00	「ものづくりと現場改善」実践塾	教 育	富山県農業総合研修所		

「富山経協」vol.806

2013年(平成25年)6月号  
2013年6月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)  
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール [info@toyama-keikyo.jp](mailto:info@toyama-keikyo.jp)